

令和2年度 学校評価

	自己評価	学校関係者評価
I 教育理念	農協の相互扶助の精神を受け継ぎ、理念、目的、目標、到達度など学生要覧や建学の精神に示している。変化する地域・医療を捉え、カリキュラムの改正の準備をしている。	自己評価を承認
II 教育目標	段階別教育目標の見直しをしている。看護基礎教育での到達度の検討を図り、学生にわかりやすく伝わりやすい表現を検討している。教育における卒業認定方針(ディプロマ・ポリシー)、教育改定編成・実施方針(カリキュラムポリシー)、入学者受け入れ方針(アドミッションポリシー)など見直している。	自己評価を承認
III 教育課程・経営	カリキュラム進捗計画に沿って進行できている。学生にも進捗がわかるように、学生要覧、講義要録、進捗表、年間時間割などの配布や掲示、説明をしている。教員の教育・研究活動の充実については、授業や実習業務が重なっていることより、教員間で協力し時間確保に努めている。また、実習施設の指導力向上を図るため、教員と臨地指導者との合同会議や研修会を定期開催し、教育環境を整えている。臨地指導者の実習指導者講習会への参加協力を継続し依頼している。	コロナ禍で臨地指導者との合同会議や研修会が少なくなったことはやむを得ないと判断。コロナが収束したら、教員と実習指導者の間で指導の共有化を図るため、定期的な開催をお願いしたい。
IV 教授学習評価過程	授業内容や展開プロセスなどの評価・検討を日々の業務、カンファレンス、カリキュラム検討会で行っている。5年に1度学校全体としての授業評価を実施している。学生が理解しわかる喜びへと発展していける工夫を検討している。また、思考を中心とする授業や実習においては、ルーブリック評価を検討している。教員は各研修会に参加し、教授内容・授業方法についての研鑽に努め、改善を図っている。	自己評価を承認
V 経営管理	専任教員の確保は、8人以上の規程数は満たしている。実習と学内指導の兼務型であるため、ソフト面の充実のためにも人員確保をし教育体制を整え、業務改善を検討している。また、ハード面の課題があり、安全で充実した学習環境に向け検討している。	コロナ禍で新校舎計画が延期しているとのことであるが、学生の安全面や入学生の確保を考えると、できるだけ早期に再開していただきたい。
VI 入学	今後18歳人口も減少していく。西部地区の減少は緩やかではあるが、危機感をもって対応を考えていきたい。平成28年度入試より社会人入試を実施したが、社会人の確保が難しくなっている。当校が求める人材確保を考え、一般入試方法の再検討をしている。	学生へのアピールを積極的に実施できない状況であったと理解しているが、今後、少子化により入学生の確保はますます厳しいことが予測されるため、留意して取り組んでいただきたい。
VII 卒業就職進学	国家試験は、全国合格率を上回り、過去5年間としては99%である。また卒業時の到達状況は教育目標1と2が高値傾向を示し、自己理解他者理解とともに、対象である生活者としての人間への興味関心を持った学びをしている。卒業生の成長や活動状況などは、各厚生連関連病院からの報告より把握している。	系統病院に安定して看護師を輩出していることを評価する。しかし、病院勤務をしてから一つの区切りとなる3年で退職をされる看護師が多い印象である。そのため、厚生連で長く働きたいと思わせるような取り組みを検討していただきたい。
VIII 地域社会国際交流	看護総合IV(広域看護活動)において、国際看護を教授している。海外看護活動経験者(卒業生)の協力を得て実施している。地域活動としては、看護希望者の進学相談会への参加や関連病院・近隣クリニックなどの行事運営などのボランティア参加を引き続き継続的に実施していく。	自己評価を承認
ix 研究	日々の教育実績の評価・まとめを次に活かしていくように、教員の研究活動の意識向上、研究活動時間・環境の整備を検討している。	医療現場で役立つ教育が優先となり、研究をするのは負担が大きいです。共同研究などを時間をかけて実施するのはどうか。

※看護学校評価委員会 令和3年6月17日 場所:本校会議室
 委員長 森川友子 (看護学校経験者)
 委員 松井陽子 (卒業生)
 委員 佐藤比奈子 (JA静岡厚生連遠州病院看護副部長)
 委員 匂坂紀秀 (JA静岡県厚生連管理部人事課長)

事務局 藤田美保子 (学校長)
 深田兼司 (事務長)